

2016 年 1 月 6 日 実施

**1** (演習書 12.2.3 他)次で与えられる  $\mathbb{R}^3$  のベクトルを考える .

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} 3 \\ 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} -1 \\ 2 \\ -1 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 5 \\ 18 \end{bmatrix}, \mathbf{b}_3 = \begin{bmatrix} -7 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix},$$

(1)  $\mathbb{R}^3$  の基底  $\mathcal{A} = (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$  に関する,  $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \mathbf{b}_3$  の座標をそれぞれ求めよ .(2) 線形写像  $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^2$  を次で定義する .

$$f(\mathbf{a}_1) = \begin{bmatrix} 3 \\ -1 \end{bmatrix}, \quad f(\mathbf{a}_2) = \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \end{bmatrix}, \quad f(\mathbf{a}_3) = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$$

$\mathbb{R}^2$  の基底  $\mathcal{F} = \left( \mathbf{v}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} \right)$  を考え,  $\mathcal{F}$  に関する,  $f(\mathbf{a}_1), f(\mathbf{a}_2), f(\mathbf{a}_3)$  の座標を求めることにより,  $\mathcal{A}, \mathcal{F}$  に関する  $f$  の表現行列  $A$  を求めよ .

(3)  $\mathbb{R}^3$  の基底  $\mathcal{B} = (\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \mathbf{b}_3)$  について,  $\mathcal{B}, \mathcal{F}$  に関する  $f$  の表現行列  $B$  を求めよ .(4)  $\mathcal{A}$  から  $\mathcal{B}$  への基底変換行列  $P$  を求めよ .(5)  $\mathbb{R}^2$  の基底  $\mathcal{G} = \left( \mathbf{w}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \end{bmatrix}, \mathbf{w}_2 = \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \end{bmatrix} \right)$  を考える .  $\mathcal{F}$  から  $\mathcal{G}$  への基底変換行列  $Q$  を求めよ .(6)  $\mathcal{B}, \mathcal{G}$  に関する  $f$  の表現行列を  $C$  とするとき,  $C$  を  $P, P^{-1}, A, Q, Q^{-1}$  の中から必要なものを用いて表すことにより, 求めよ .(7) 線形写像  $g: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$  を

$$g\left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} -x - 2y \\ -4x - 4y \\ 5x + 12y \end{bmatrix}$$

で定義する .  $\mathcal{F}, \mathcal{A}$  に関する  $g$  の表現行列  $M$  を求めよ .(8) 合成写像  $g \circ f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$  の  $\mathcal{A}$  に関する表現行列を求めよ .(9) 合成写像  $f \circ g: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$  の  $\mathcal{F}$  に関する表現行列を求めよ .(10)  $f, g, g \circ f, f \circ g$  について, 標準基底に関する表現行列をそれぞれ求めよ .**1** を効率よく計算するためのヒント

拡大係数行列を何度も計算するよりも,  $M_1 = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3], M_2 = [\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2]$  の逆行列を予め計算しておくといよい . ちなみに  $M_1$  の行列式は  $-18$ ,  $M_2$  の行列式は  $-2$  である .

**2** (木田雅成『線形代数学講義』問題 VI.15(ii))

ベクトル空間  $V$  の基底  $\mathcal{A} = (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$  とベクトル空間  $W$  の基底  $\mathcal{B} = (\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \mathbf{b}_3, \mathbf{b}_4)$  に対し, 線形写像  $f: V \rightarrow W$  を

$$f(\mathbf{a}_1) = -\mathbf{b}_1 - \mathbf{b}_3 + \mathbf{b}_4, \quad f(\mathbf{a}_2) = 3\mathbf{b}_1 + 3\mathbf{b}_3 - 3\mathbf{b}_4, \quad f(\mathbf{a}_3) = -2\mathbf{b}_1 + \mathbf{b}_2 - 2\mathbf{b}_3 + 2\mathbf{b}_4,$$

で定義する.

- (1)  $\mathcal{A}, \mathcal{B}$  に関する  $f$  の表現行列  $A$  を求めよ.
- (2)  $A$  を用いて,  $\text{Ker } f$  の次元と基底を一組求めよ. また,  $\text{Im } f$  の次元と基底を一組求めよ.

**3** (演習書 12.2.6(2), 12.2.7(4), 12.2.8(2))

次の線形変換について, 標準基底に関する表現行列を求めよ.

- (1) 直線  $y = x$  に関する対称移動の引き起こす  $\mathbb{R}^2$  の線形変換.
- (2) 平面  $x + y + z = 0$  に関する対称移動の引き起こす  $\mathbb{R}^3$  の線形変換.
- (3)  $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}$  をひとつ固定したとき,  $f(\mathbf{x}) = \mathbf{a} \times \mathbf{x}$  で定まる  $\mathbb{R}^3$  の線形変換  $f$ .

**4**

2 次以下の実数係数 1 変数多項式全体のなすベクトル空間を  $\mathbb{R}[x]_2$  と表す. 線形変換  $D: \mathbb{R}[x]_2 \rightarrow \mathbb{R}[x]_2$  を次で定義する.

$$D(f(x)) = 2f(x) - (x+1)f'(x)$$

- (1)  $\mathbb{R}[x]_2$  の基底  $\mathcal{A} = (1, x, x^2)$  に関する  $D$  の表現行列  $A$  を求めよ.
- (2)  $A$  を用いて  $\text{Ker } D, \text{Im } D$  の基底をそれぞれ一組求めよ.
- (3)  $\mathbb{R}[x]_2$  の別の基底  $\mathcal{B} = (1+x, x+x^2, x^2)$  に関する  $D$  の表現行列を求めよ.

---

要点 (木田雅成『線形代数学講義』p.155, 定義 23.9, 命題 23.12)

$V, W$  がベクトル空間で,  $f: V \rightarrow W$  が線形写像であるとする.

$V$  の基底  $\mathcal{A} = (\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n), \mathcal{A}' = (\mathbf{v}'_1, \dots, \mathbf{v}'_n)$  と  $W$  の基底  $\mathcal{B} = (\mathbf{w}_1, \dots, \mathbf{w}_m), \mathcal{B}' = (\mathbf{w}'_1, \dots, \mathbf{w}'_m)$  を考える.  $\mathcal{A}, \mathcal{B}$  に関する  $f$  の表現行列とは,

$$(f(\mathbf{v}_1), \dots, f(\mathbf{v}_n)) = (\mathbf{w}_1, \dots, \mathbf{w}_m)A$$

を満たす  $m \times n$  行列  $A$  のことをいう.  $\mathcal{A}$  から  $\mathcal{A}'$  への基底変換行列とは,

$$(\mathbf{v}'_1, \dots, \mathbf{v}'_n) = (\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n)P$$

を満たす  $n \times n$  行列  $P$  のことをいう.  $\mathcal{A}'$  から  $\mathcal{A}$  への基底変換行列は  $P^{-1}$  である. さらに,  $\mathcal{B}$  から  $\mathcal{B}'$  への基底変換行列を  $Q$  とするとき,  $\mathcal{A}', \mathcal{B}'$  に関する  $f$  の表現行列は, 上の記号を用いて,  $Q^{-1}AP$  と表される.